

厚生労働省委託事業 | 平成22年度キャリア教育専門人材養成事業

高校における キャリア教育 実践講習

～キャリア・コンサルティングの
理念・手法を活用し、学校現場における
キャリア形成支援を担う人材を育成～

 **intelligence**
株式会社インテリジェンス

講習の背景と目的

社会人・職業人として自立できる人材を育成するためには、キャリアが子ども・若者の発達段階やその発達課題の達成と深くかわりながら段階を追って発達していくことを踏まえ、キャリア教育の視点に立ち、義務教育から高等教育までの体系的な教育の改善・充実を図ることが必要とされています。また、この中で、高等学校におけるキャリア発達課題は、「現実探索・試行と社会的移行準備の時期」と位置付けられ、また、「自己理解の深化と自己受容」、「選択基準としての勤労観・職業観の確立」、「将来設計の立案と社会的移行の準備」及び「進路の現実吟味と試行的参加」がキャリア教育の目標とされています。

平成22年5月に文部科学省中央教育審議会キャリア教育・職業教育特別部会により第二次審議経過報告「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」が取りまとめられ、キャリア教育を進めるに当たってはキャリア・カウンセリングの有効性、専門人材の学校への配置や、教職員のカウンセリングに関する知識やスキルを習得させるための研修の充実、さらには職業能力の開発・向上の促進等を担う厚生労働省との連携・協力を図ること等が提言されています。

他方、経済・社会環境や雇用情勢の変化、企業の若者に求める人材像の変化、フリーター・ニート、学卒未就職者の増加など、近年、若者の雇用をめぐる諸問題が顕在化しています。

そこで、厚生労働省がこれまで培ってきたキャリア・コンサルティング等の雇用施策・職業能力開発施策のノウハウを提供するとともに、教職員とキャリア・コンサルタント等の外部の専門人材との連携による効果的なキャリア教育を展開するため、本講習事業を実施することといたしました。

本講習が、先述した諸問題への対策として有効に機能することを含め、キャリア教育推進に大いに寄与することを願っています。

目次

Part.1 明日から使える!キャリア教育～基礎編～

01 キャリア教育と高校	P.02
02 高校生への理解	P.06
03 学校・生徒への働きかけ	P.12

Part.2 明日から使える!キャリア教育～実践編～

04 自己理解	P.18
05 社会理解・職業理解	P.22
06 啓発的経験	P.26
07 キャリアプランニング	P.30
08 まとめと振り返り	P.32

巻末資料 指導に活用できるワークシート&知識

・ キャリア教育に活用できるワークシート例	P.36-43
・ 3年間の指導計画例	P.44-45
・ 雇用関連データ	P.46-47
・ 労働法～働く時に必要な基礎知識～	P.48-49
・ さまざまな働き方（雇用形態）	P.50-51
・ キャリア教育取組事例の参考文献とキャリア教育のためのテキスト	P.52

明日から使える！ キャリア教育～基礎編～

第一部では、
高校におけるキャリア教育の理念、制度など
基本となる事項についての理解を深めます。
受講者同士のグループワークを通じて、
情報・意見交換を活発に行うことで
様々な学校現場のリアルな声や先進事例等に即した
キャリア教育の展開について考えていきます。

01 キャリア教育と高校

キャリア教育に関わる人材への期待と役割

キャリア教育と職業教育

学校から、社会・職業への円滑な移行を促すために、キャリア教育と同時に、「一定又は特定の職業に従事するために必要な知識、技能、能力や態度を育てる」ための“職業教育”も必要とされています。

高校におけるキャリア教育の現状と展望

教育基本法の改正(平成18年)や学校教育法の改正(平成19年)により、「職業・勤労を重んずる態度を養うこと」と、教育の目標としてキャリア教育の位置づけが明確化されました。

また、教育振興基本計画(平成20年)に基づき、小学校段階からの「勤労観・職業観や知識・技能を育む教育(キャリア教育・職業教育)」が推進されています。

平成22年度から先行実施されている新学習指導要領の総則では、「生徒が自己の在り方、生き方を考え、主体的に進路を選択することができるよう学校の教育活動全体を通じ、計画的、組織的な進路指導を行い、キャリア教育を推進」することが明示され、キャリア教育の拡充、深化が一層求められています。

A キャリア教育の定義と必要性

キャリア教育とは 一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発進を促す教育のこと

【出典】今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について一答申一(文部科学省)

近年、若年者の失業率の高さや、フリーター等非正規雇用の増加、若年無業者数(約63万人)、新規学卒者の早期離職(高卒約5割、大卒約3割)など、「学校から社会・職業への移行や社会人・職業人としての自立」が、社会全体を通じた構造的な課題となっており、社会に出る前の学校におけるキャリア教育・職業教育の充実が急務となっています。

B キャリア教育で育成すべき能力

文部科学省では、社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力に含まれる要素として、「基礎的・基本的な知識・技能」、「基礎的・汎用的能力」と、能力や知識・技能の基盤となる「論理的思考力、創造力」、「意欲・態度及び価値観」、また特定・一定の仕事遂行するために必要な専門的知識や技能等である「専門的な知識・技能」などで構成されるとしています。

また、「基礎的・汎用的能力」は、分野や職種にかかわらず、社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる能力であるとしています。

4つの基礎的・汎用的能力

人間関係形成・社会形成能力

多様な他者の考えや立場を理解し、相手の意見を聴いて自分の考えを正確に伝えることができるとともに、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たしつつ他者と協力・協働して社会に参画し、今後の社会を積極的に形成することができる力

自己理解・自己管理能力

自分が「できること」「意義を感じること」「したいこと」について、社会との相互関係を保ちつつ、今後の自分自身の可能性を含めた肯定的な理解に基づき主体的に行動すると同時に、自らの思考や感情を律し、かつ、今後の成長のために進んで学ぼうとする力

課題対応能力

仕事をする上での様々な課題を発見・分析し、適切な計画を立ててその課題を処理し、解決することができる力

キャリアプランニング能力

「働くこと」を担う意義を理解し、自らが果たすべき様々な立場や役割との関連を踏まえて「働くこと」を位置付け、多様な生き方に関する様々な情報を適切に取捨選択・活用しながら、自ら主体的に判断してキャリアを形成していく力

【参考】今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について一答申一(文部科学省)をもとに作成

C 高等学校におけるキャリア教育の目標と発達課題

高等学校では、高校生の発達課題に合わせたキャリア教育の目標を設定しています。

高校1年生のキャリア発達課題

- 新しい環境に適応するとともに他者との望ましい人間関係を構築する
- 学習活動を通して自己の能力適性を理解する
- 様々な情報を収集し進路選択の幅を広げる

高校2年生のキャリア発達課題

- 他者の価値観や個性を肯定的に認め、受容する
- 学習活動を通して勤労観・職業観を育成する
- 自己の職業的な能力適性を理解し将来設計を図る
- 進路実現に向けた課題を理解し、検討する

高校3年生のキャリア発達課題

- 自己の能力適性を的確に判断し、卒業後の進路について具体的な目標と課題を定め実行に移す
- 理想と現実の葛藤を通して困難を克服するスキルを身に付ける

高等学校におけるキャリア教育の目標

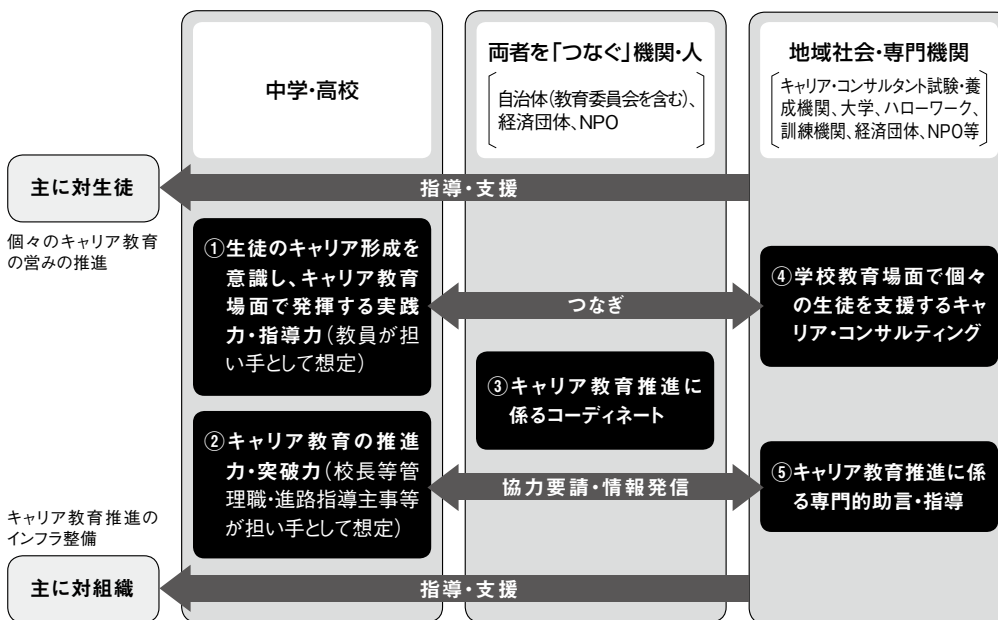
- 自己理解の深化と自己受容
- 選択基準としての勤労観・職業観の確立
- 将来設計の立案と社会的移行の準備
- 進路の現実吟味と試行的参加

【出典】「自分を社会に生かし、自立を目指すキャリア教育」(国立教育政策研究所生徒指導研究センター)

D キャリア教育に関わる人材の役割と機能

キャリア教育を効果的に展開するためには、学校が家庭や地域・社会、企業、NPO等と連携し、互いの能力をうまく活用しながら一体となった取組を進めることが重要となってきました。キャリア・コンサルタント等の外部専門人材の活用を視野に入れて高校のキャリア教育の推進に関わる人材の役割・機能を整理すると、立ち位置等により概ね以下の5つに区分することができます。

高校のキャリア教育推進に関わる人材の役割・イメージ



【出典】「キャリア・コンサルティング研究会報告書」(厚生労働省 中央職業能力開発協会 平成22年3月)

これらの役割を担う能力を備えた人材を適切に活用すること、そして、各々が連携しながらキャリア教育を推進することが期待されています。しかし、実際にキャリア教育推進に関わる人材からは、自身に不足している能力や課題についての意見も多く挙げられており、それらを補うために各個人の努力や育成プログラムの設置、養成が必要とされています。このような背景のもと、キャリア教育の専門人材を養成する取組みのひとつとして、本講習が実施されるものです。

各キャリア教育専門人材の抱える悩み

対象	現場から挙げられる課題
中学・高校キャリア教育担当者	○会社組織で働くことへの理解(社会経験等) ○勤労観・職業観の理解 ○キャリア教育のノウハウ ○キャリア・コンサルティングに関する能力 ○キャリア支援情報 ○働きかけ力(惹きつけ力) ○リソース(時間・予算)
地域社会・専門機関キャリア教育支援者	○学校教育制度への理解 ○学校・生徒のニーズの理解 ○高校生の発達課題の理解 ○高校生の周辺環境への理解 ○パフォーマンス、表現力 ○企画力、コーディネート・連携力

キャリア・コンサルタントとは

キャリア・コンサルティングをはじめとして、キャリア形成支援を担う人材のこと
(P.32「キャリア・コンサルティングとは」参照)

外部専門人材の活用

文部科学省中央教育審議会の答申「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」においてもキャリア・カウンセリングの専門人材の学校への配置、職業能力開発を担う厚生労働省との連携・協力等の提言がなされています。

参考資料

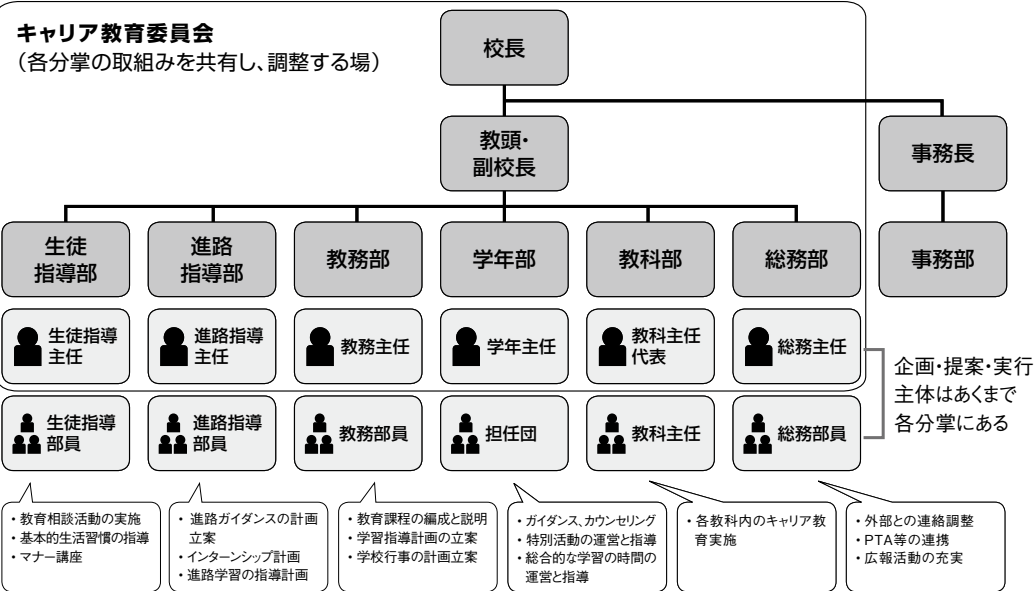
参考となるキャリア教育事例や、キャリア教育のためのテキスト紹介(P.52参照)



E 学校の組織体制

高等学校の組織は、校長をトップに企業組織と同様に枝分かれした組織になっており、各分掌（部署）内、または分掌合同にて様々な委員会が設置され校務が遂行されています。キャリア教育も通常、一部門だけが担当するわけではなく、様々な部門の連携によって行われています。

学校組織とキャリア教育委員会（例）



【参考】「小学校・中学校・高等学校キャリア教育推進の手引き」（文部科学省）、「キャリア教育入門」（三村隆男著）をもとに作成

キャリア教育委員会は、進路指導部がキャリア教育の展開について発信し、理解を求めると同時に、各分掌が今取り組んでいる内容の趣旨や具体的なプランについて共有・交換をする場となります。主任クラスが中心となり、各分掌のメンバーと情報共有します。

委員会をキャリア教育に関する情報共有の場とし、週1回程度のペースで開催されることが望ましいとされています。

参考データ：高等学校（全日制・定時制）の学科別学校数及び生徒数（本科）と教職員数

区分	全 日 制			定 時 制		
	学校数	生徒数	教職員数	学校数	生徒数	教職員数
計	(4,932)	3,244,052	(226,387)	(704)	116,049	(12,542)
普通	(3,745)	2,353,506		(485)	77,022	
専門	(2,647)	732,378		(260)	25,095	
総合学科	(307)	158,168		(35)	13,932	

（注）（ ）内は、全日制課程又は定時制課程を置く学校数である。

【参考】平成22年度「学校基本調査」（文部科学省）をもとに作成

キャリア教育実施体制の理解の補足

- ・進路指導の年間計画は9割強の高い割合で作成されている
- ・ほとんどの高校で進路指導部が進路指導を一括担当しており、人数は6～10人で担当している
- ・進路指導の在任期間は2年～3年以上が多い
- ・公共職業安定所との連携は約8割、上級学校との連携は約4割
- ・進路指導室、情報資料室はほとんどの高校に設置されており進路相談室も約8割が設置

【参考】「進路指導、キャリア教育の理論と実践」（吉田・篠 著）

F 高等学校教員の仕事

教員は大きく分けて①教科指導②学年指導(担任・副担任)③分掌業務の3つの役割を担っており、それぞれに関わり大きくは5つの業務を日常的に行っています。

個人ワーク

教員の一日のスケジュールを想像してみましょう。

1日平均 _____ 時間勤務(残業時間平均 _____ 時間)

7時	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	

教員の5つの業務

• 生徒指導業務

朝の業務、授業、授業準備、学習指導、成績処理、生徒指導(集団・個別)、部活動、生徒会指導、学校行事、学年学級経営

• 学校運営業務

学校経営、会議・打ち合わせ、事務・報告書作成、校内研修

• 外部対応

保護者・PTA対応、地域対応、行政関係団体対応

• 校外業務

校務としての研修、会議

• その他

その他の校務、休憩・休息

【出典】「教員勤務実態調査」(Benesse教育開発センター)

G 高等学校でのキャリア教育

上記のように多岐にわたる仕事を抱えながら、教員はどのようにキャリア教育に取り組んでいるのでしょうか? 本来求められるキャリア教育実践は以下の3つに分類できますが、学校によるばらつきが大きいことが課題であると指摘されています。

①教科・科目を通したキャリア教育

国語、数学、理科、芸術…等の各教科において学んでいる内容が活用されている実際の生活場面を伝え、その教科を学ぶ面白さ・楽しさを教えると同時に、培われる能力・態度とそれらの意義を伝えます。

②総合的な学習の時間を通したキャリア教育

横断的・総合的な学習を通して自ら課題を見つけ、学び、考え、主体的に行動することによって、自己の在り方や生き方を考えさせるようにします。

③特別活動を通したキャリア教育

ホームルーム活動や生徒会活動、学校行事などを通して社会的自立を図る上で必要な能力を育てます。

【参考】「高等学校におけるキャリア教育推進のために」(国立教育改革研究所生徒指導研究センター)をもとに作成

参考資料

教員の仕事を理解するうえでは、春・夏・冬の長期休暇や試験・文化祭・体育祭など、さまざまな行事があることを考慮する必要があります。学校による差異もあります。P.44-45「3年間の指導計画」

先生たちの進路指導上の悩みは?

- ・指導力のばらつき
- ・職業知識の不足
- ・多忙で個別の生徒に対応できない
- ・近年の生徒は進路について考える意識が低い
- ・生徒の進路が多様で指導が困難
- ・保護者の理解や協力を得るのが困難

【出典】「高等学校の進路指導に関する意識調査」(Benesse教育開発センター)

02 高校生への理解

高校生を取り巻く環境と支援に当たる際の留意点

A 高校生の実態

キャリア教育の必要性が高まっている背景には、子ども達の精神的な自立の遅れや社会性の未熟さなど、発達課題の未達成が近年一層顕著になってきていることも挙げられます。キャリア教育のあるべき姿を理解するためには、現代の高校生を取り巻く環境や抱えている課題を理解しておくことも大切です。

グループワーク

以下のキーワードを参考に、現代の高校生が抱えている課題と将来に与える影響を考えてみましょう。

進路・進学	勉強・塾	部活動	アルバイト
夢・希望する職業	趣味	家庭環境	中途退学・不登校
ネット	携帯	恋愛・性	いじめ

①強く問題だと感じてるものはありますか？

②キャリア発達にどのような影響を与えられますか？ また、その解決方法は？



グループ内で議論してみましょう

参考データ:いじめ、不登校、中途退学について

- ① **いじめ**……小・中・高・特別支援学校におけるいじめの認知件数は約7万3千件と、前年度より約1万2千件減少⇒高等学校5,642件(前年度より1,095件減少)
- ② **不登校**……高等学校における不登校生徒数は約5万2千人と、前年度より約1千人減少し、不登校生徒の割合も1.55%と前年度(1.58%)より減少
- ③ **中途退学**……高等学校における中途退学者は約5万7千人と前年度より約9千人減少し、中途退学者の割合も1.7%と前年度(2.0%)より減少

【出典】平成21年度「児童生徒の問題行動等生徒指導上の諸問題に関する調査」(文部科学省)

参考データ:高校生の行動別生活時間

行動分類			平均時間(24時間あたり)
生活に必要な時間	睡眠	睡眠	6時間43分
	生活	身のまわりのこと	1時間10分
		食事	54分
学校にかかわる時間	移動	通学	1時間25分
		移動(通学以外)	11分
	学校	学校	7時間22分
		放課後に学校で過ごす	17分
	部活動	部活動	1時間30分
放課後の時間	遊び	屋外での遊び・スポーツ	2分
		室内での遊び	4分
		テレビゲーム	11分
	勉強	学校の宿題	33分
		宿題以外の勉強	29分
		学習塾	11分
	習い事	習い事・スポーツクラブ	3分
		習い事の練習	1分
	メディア	テレビ・DVD	57分
		本・新聞	4分
		マンガ・雑誌	7分
		音楽	7分
		携帯電話	20分
		パソコン	11分
	人と過ごす	家族と話す・過ごす	8分
		友だちと話す・過ごす	10分
	その他	家の手伝い	4分
		買い物	4分
		からだを休める	19分
		ペットと過ごす	2分
		アルバイト	12分
		その他	6分
無回答・不明			4分

【出典】「放課後の生活時間調査子どもたちの24時間」(Benesse教育研究開発センター)

高校生の希望する職業は？

(高2男子)

- 1位:教師
- 2位:公務員
- 3位:薬剤師
- 4位:声優
- 5位:調理師

(高2女子)

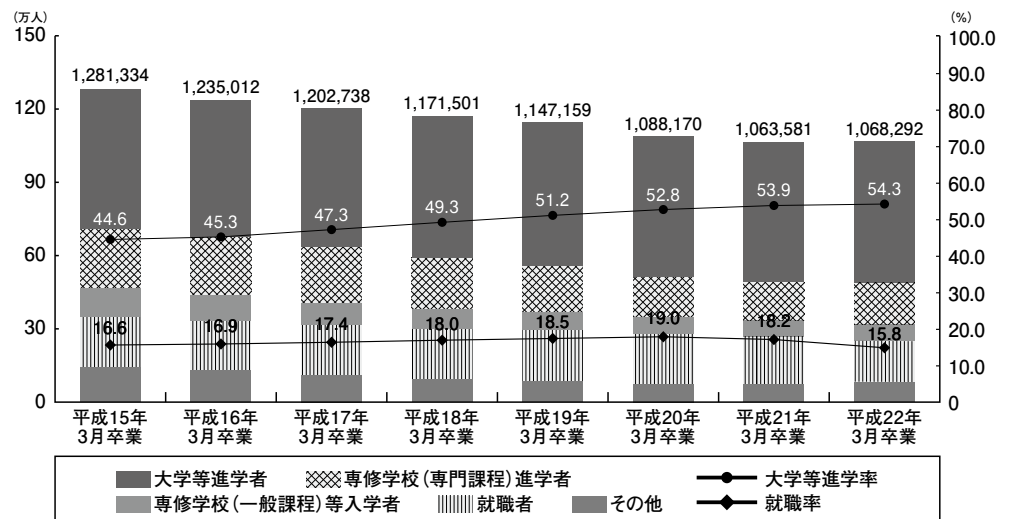
- 1位:保育士・幼稚園教諭
- 2位:看護師
- 3位:教師
- 4位:栄養士・管理栄養士
- 5位:公務員

【出典】「2010ドリームランキング高校生の希望する就職ランキング」(株式会社ドリコム)

B 高校生の進路状況

高校新卒者の卒業後の進路の情報は、毎年文部科学省がとりまとめて発表しています（学校基本調査）。進路の傾向は1年だけで大きく変化するわけではありませんが、5年・10年という期間でその推移を見ると、高校生の進路傾向が浮き彫りになります。とくに、卒業生数、進学率、就職率の変化に注目してみましょう。

卒業生数、就職者数及び就職率等の推移



【参考】「学校基本調査」(文部科学省)をもとに作成

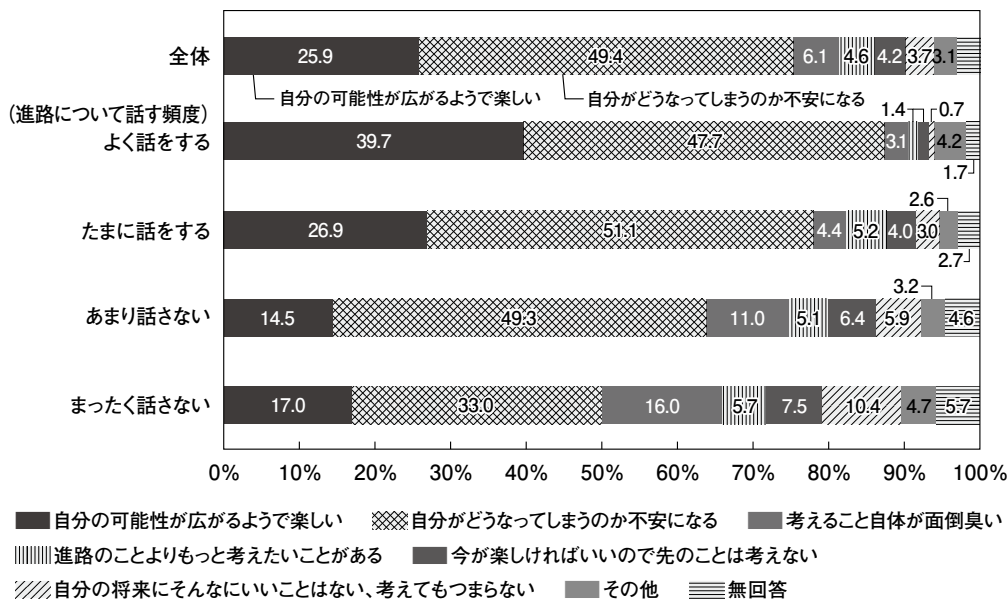
グループワーク

上のグラフから高校生の進路状況について読み取れることを書き出してみましょう。

現代の高校生の進路の傾向は？

参考データ:進路を考える時の高校生の気持ち

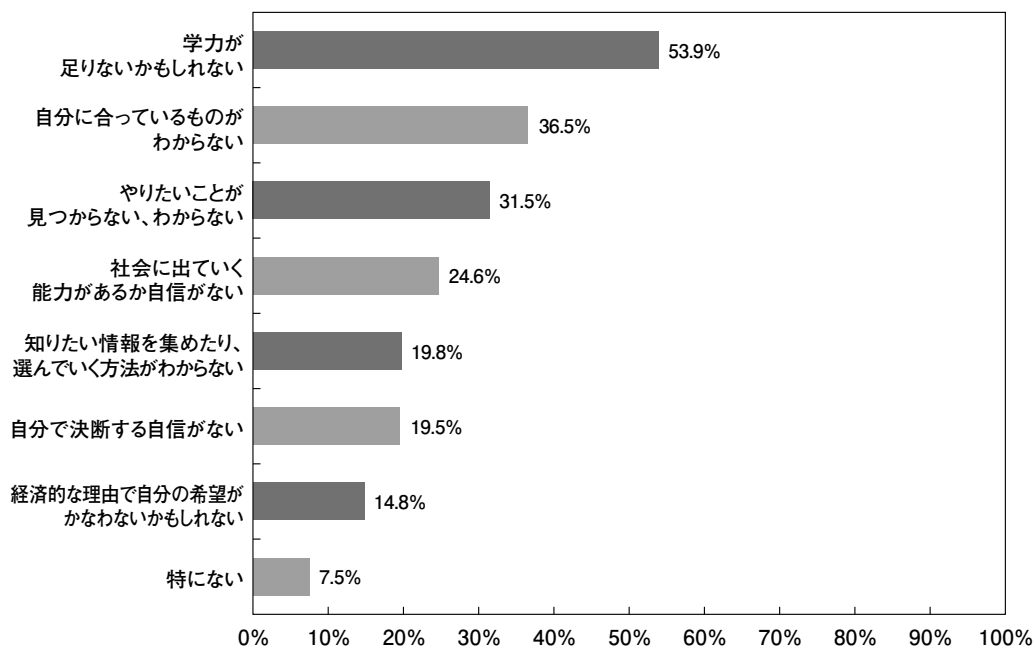
「自分がどうになってしまうのか不安になる」という者が約半数。「自分の可能性が広がるようで楽しい」という者(約26%)を大きく上回っている。



【出典】「高校生と保護者の進路に関する(2009)意識調査」((社)全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート)

参考データ:進路選択に関する高校生の気掛かり

学力に対する不安に次いで、「自分に合っているものがわからない」「やりたいことが見つからない、わからない」「社会に出ていく能力があるか自信がない」が気掛かり。



【出典】「高校生と保護者の進路に関する(2009)意識調査」((社)全国高等学校PTA連合会・(株)リクルート)

集計基準の違いに 留意してください

厚生労働省の調査は、学校・公共職業安定所の紹介を希望する生徒(求職者)の状況を取りまとめたものです。そのため、「就職内定率」は「求職者のうち内定を得た者」の比率を示します。

・就職内定率＝就職内定者数÷求職者数

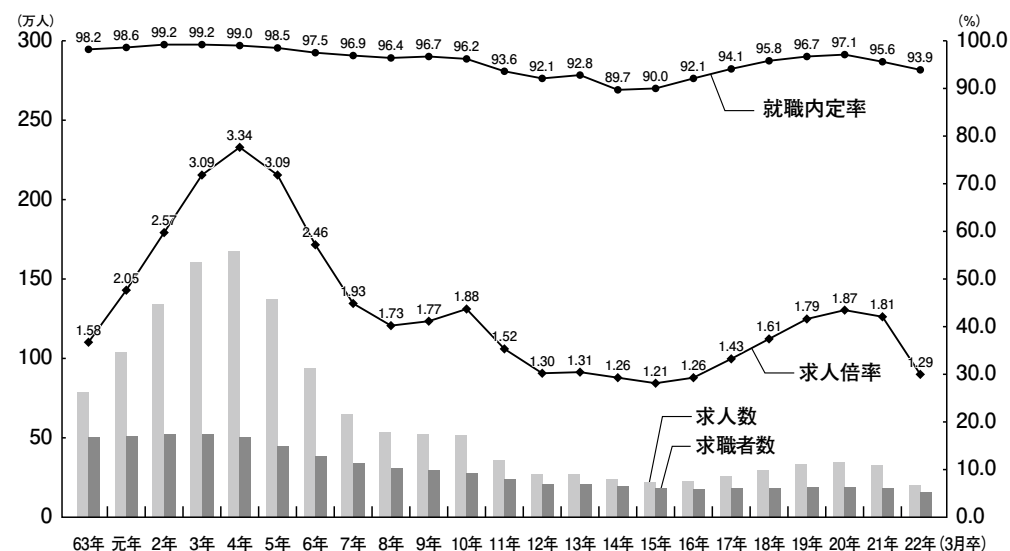
下表の文部科学省の調査は、全卒業者の状況を取りまとめたものです。そのため「就職率」は「卒業生全体のうち就職した者」の比率を示します。

・就職率＝就職者数÷卒業者数

C 高校生の就職環境

高校新卒者の就職内定状況等の情報は、毎年厚生労働省や文部科学省がとりまとめて発表しています。就職環境は経済の動きによって急激に大きく変化することもあるので、就職に関する指導を行う際は必ず確認しましょう。また、高校生の就職環境は地域差が大きいので、該当地域の特性をよく理解しておくことが大切です。

高校新卒者の求人倍率・就職内定率の推移(3月末現在)



【出典】平成21年度「高校・中学新卒者の就職内定状況等」(厚生労働省)

高等学校卒業者の「都道府県別」就職率

区分	卒業者数 (人)	就職者数 (人)	就職率 (%)	県外就職 者数(人)	県外就職 率(%)
計	1,069,129	167,370	15.8	33,094	19.6
北海道	47,246	8,595	18.3	865	10.0
青森	13,760	3,859	28.5	1,860	47.4
岩手	13,227	3,573	27.1	1,555	43.3
宮城	21,094	4,179	19.9	709	16.9
秋田	9,887	2,635	26.8	1,122	42.4
山形	11,728	2,917	25.0	838	28.6
福島	20,524	5,272	26.0	1,298	24.4
茨城	26,384	4,569	17.4	484	10.5
栃木	18,616	3,362	18.2	527	15.5
群馬	17,174	2,668	16.0	284	10.3
埼玉	54,493	6,561	12.1	1,740	26.3
千葉	46,579	5,271	11.3	1,021	19.3
東京	97,244	5,578	5.8	473	8.4
神奈川	60,868	4,746	7.8	988	20.8
新潟	21,664	3,397	15.7	286	8.4
富山	9,041	1,620	18.0	127	7.8
石川	10,241	1,970	19.3	184	9.3
福井	7,557	1,485	19.7	183	12.3
山梨	8,822	1,239	14.1	138	11.1
長野	19,273	2,592	13.5	224	8.6
岐阜	18,207	3,803	20.9	828	21.7
静岡	33,349	6,745	20.3	393	5.8
愛知	59,261	9,949	16.8	311	3.1
三重	16,437	3,930	23.9	486	12.4
滋賀	12,092	1,847	15.3	201	10.9
京都	22,209	1,875	8.5	341	18.1
大阪	67,766	7,238	10.7	420	5.8
兵庫	45,742	5,794	12.8	862	14.8
奈良	12,063	1,261	10.5	376	29.8
和歌山	9,423	1,785	19.0	420	23.5
鳥取	5,487	1,133	20.7	276	24.3
島根	6,697	1,334	19.9	433	32.4
岡山	17,431	3,282	18.8	527	16.0
広島	23,777	2,914	12.7	248	8.2
山口	11,876	3,115	26.6	573	18.2
徳島	6,955	1,341	19.3	370	27.5
香川	8,419	1,352	16.1	144	10.7
愛媛	12,185	2,431	20.1	493	20.1
高知	6,863	1,086	15.9	476	43.8
福岡	42,611	6,755	15.9	1,188	17.5
佐賀	8,779	2,534	29.9	1,037	39.5
長崎	14,606	3,949	27.9	1,625	39.9
熊本	16,841	3,971	24.1	1,514	37.3
大分	10,982	2,705	25.1	586	21.2
宮崎	10,932	2,874	26.6	1,188	40.9
鹿児島	17,182	4,291	25.1	2,058	47.6
沖縄	15,535	1,988	13.1	814	40.0

【出典】平成22年度「学校基本調査」(文部科学省)

個人ワーク

近年の厳しい就職環境の背景を考えてみましょう。

① 厳しい就職環境の要因は？

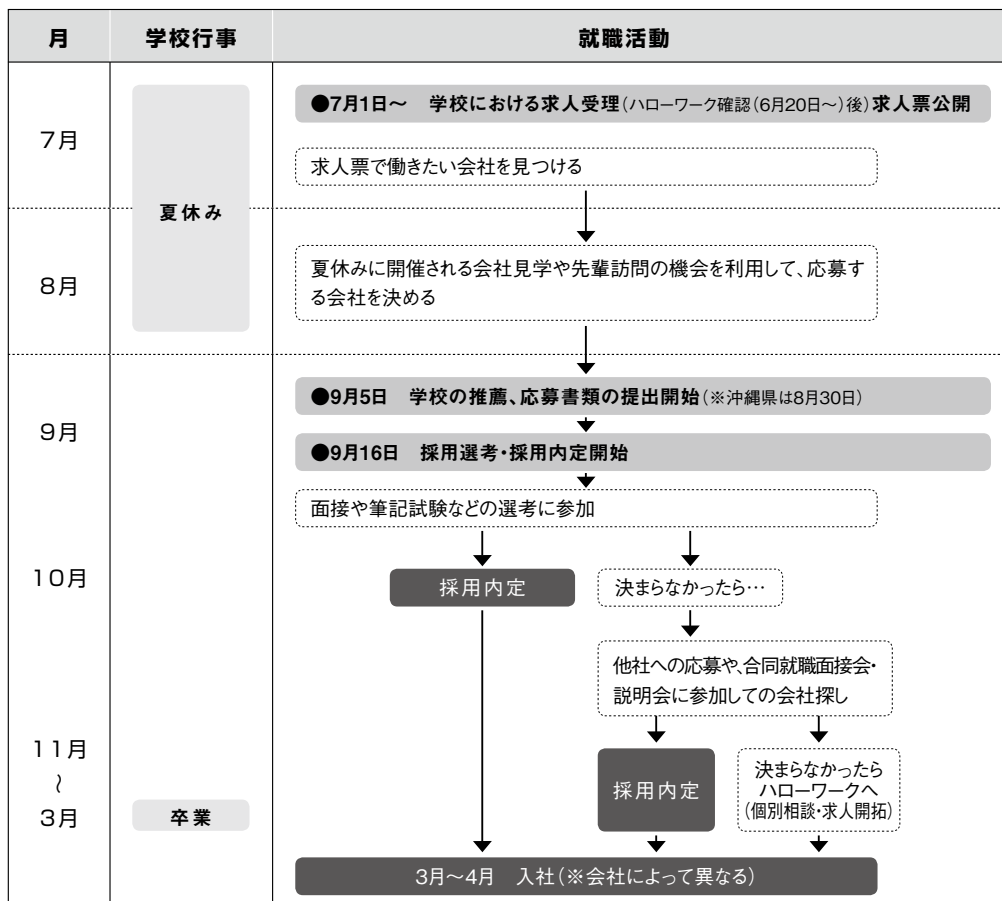
② 生徒にとってどのような影響があった？

③ 求められている対策は？

自分に出来ることを
考えてみましょう

「不況だから就職難は仕方ない」
「雇用を増やすのは自分の仕事
ではない」等の意見が出されがち
ですが、就職環境を知る目的は
そこではありません。原因や背景
をしっかり認識したうえで、その環
境の中で自分たちに出来ること
は何かを考えてみましょう。

参考資料: 高校生の就職活動の流れ



高校生の就職活動ルール

授業時数を確保して高等学校教育の充実を図るとともに、生徒の適正な推薦・選考が行われるよう、高校生の就職活動は毎年全国及び地域ごとに定められた選考日程に沿って行われています。

高校卒業後の就職支援

卒業後も高等学校とハローワークが連携して、就職活動をサポートしています。

03 学校・生徒への働きかけ

キャリア教育における学校と外部専門人材の効果的な連携

A 学校と外部専門人材の連携

キャリア教育を進める上では、地域社会や経済団体、公共機関やNPO、キャリア・コンサルタント等外部の専門機関・人材のそれぞれの役割を踏まえた連携・協力が不可欠になってきます。

グループワーク

以下のキーワードを参考に、参加者同士で、これまでに経験した事例もしくはこれからやってみたい連携について意見を交換してみましょう。

キャリア・カウンセリング(キャリア・コンサルティング)	コーディネート	職業講話
就業体験・職場見学	カリキュラム開発補助	ガイダンス・セミナー

①どのようなテーマで？

②どのような企画を？

③どのような連携・役割を？

事例紹介

国立教育政策研究所「キャリア教育体験活動事例集(第1,2冊)」—家庭や地域の連携・協力—
2.地域・関係機関との連携P.97～

【事例7】ジョブカフェ石川 中学校・高等学校に対するキャリア教育支援の現状と展望

<事例の概要と特色>

ジョブカフェ石川は、平成19年度より新たな事業として中高生など早期からの、発達課題に応じた、学校における「キャリア教育」を支援することとした。

具体的にはそれまでのジョブカフェ石川の取り組みから得た人材や知見を生かし、プログラムを開発、提供するなどして授業づくりにかかわり、現場の教員と共にキャリア教育の進展を図ろうとするものである。

その学校向け講座の1つである「ジョブカフェ石川体験～[働くこと]についてまじめに考える1日～」のコンテンツの中には「職業講話」があり、学校との打合せを行った上で、ジョブカフェ石川が依頼する講師(※仕事探しシェルパ)が「働く大人」として仕事に対する思いや働きがいなどについて生徒に語りかける。

講座中には教員にも講師の紹介や質問が出やすい雰囲気づくりも含め、積極的にかかわってもらう。また、感謝の気持ちや学ぶ態度を持って聴くことの大切さなども指導させ、外部の人材と学校が連携してキャリア教育を行っている。

※「仕事探しシェルパ」とは、県知事が業界団体等から推薦を受けた民間企業の人事・採用担当者や実務担当者の方々のこと。若者に対し講演やセミナー等を行い、先輩職業人としてのアドバイスをし、就業意識を高める役割を担う。15種類の産業分野の方が委嘱されている。

国立教育政策研究所「キャリア教育体験活動事例集(第1,2冊)」—家庭や地域の連携・協力—
3.高等学校P.198～

【事例16】北海道札幌星園高等学校 『自己肯定感』醸成を目指した体験的キャリア教育の実践

北海道札幌星園高等学校は昼夜間定時制普通科高校であるので、午後の時間帯を有効活用して様々な活動を行っている。

その一つとして総合的な学習の時間を全面的にキャリア教育に充当し、時間をかけて進路意識を向上させるために、1年から3年まで段階的に進路探求学習のプログラムを実施した。その中で、自己肯定感の向上が重要課題と考え、外部機関とも連携しつつ構造的グループエンカウンターを導入やインターンシップ参加の義務付けなど体験学習的要素を極力導入した。

またその一方で、生徒個々への対応としてキャリアカウンセリングを導入し、外部のカウンセラーは週3程度(可能なら毎日)常駐させた。カウンセラーを常駐させることにより生徒はカウンセラーという存在を認識し、信頼感を醸成する。また、外部のカウンセラーを導入することで、生徒は教員とは異なる存在として受け止めるので心を開きやすい。ただし、全てをカウンセラーに委ねてしまうのではなく、教員との役割分担が必要である。教員も当然、生徒との面談や保護者との連絡などにあたることになり、カウンセラーは第三者的なポジションを取ることになる。北海道札幌星園高等学校は、このようにカウンセリングを導入することにより、特に就職決定率の向上など具体的な進路実現に成果を上げている。

参考資料

参考となるキャリア教育事例や、
キャリア教育のためのテキスト紹介
(P.52参照)

SWOT分析の目的

何の戦略もなくやみくもに学校に働きかけを行ってもなかなかうまくはいきません。SWOT分析は、まず自分自身と周囲の環境をきちんと掴んだうえで、どの領域にどのようにアピールしていくべきかを検討するためのひとつの手法です。

B 学校への働きかけ方

「学校の組織体制」「高等学校教員の仕事」から学んだことを活かし、学校へ実際に働きかけてみましょう。その際は「ただやりたい」ではなく、自分自身が何が出来て何が出来ないかをしっかり認識しておくことが重要です。

個人ワーク

SWOT分析を用いて、学校への効果的な働きかけの戦略を立ててみましょう。

①まず自分自身の「強み」「弱み」と、外部環境の「機会」「脅威」を書き出してください。

	プラス要因	マイナス要因
内部環境 (自分自身の 特質)	Strengths(強み)	Weaknesses(弱み)
外部環境 (社会や競合 者の動向)	Opportunities(機会)	Threats(脅威)

②上で書き出した要因を組み合わせ分析し、どのような分野で学校に働きかけていくべきか戦略を考えましょう。

Strength × Opportunities = 積極的に取り組んでいくべき領域

Strength × Threats = 自分の強みで機会創出を図るべき領域

Weaknesses × Opportunities = 機会を逃さぬよう弱みを改善していくべき領域

Weaknesses × Threats = 撤退すべき領域

③上記の分析をもとに、具体的にどのようなアクションを起こすべきか考えましょう。

C 生徒への働きかけ方

効果的なキャリア教育を行うためには「学校へ働きかける力」だけでなく、「生徒へ働きかける力」も必要とされます。具体的には、生徒達に対して指導の意図をしっかりと「伝える」と同時に、生徒達から気持ちや情報を「引き出し」、生徒達を「巻き込んでいく」ための力が必要です。

グループワーク

生徒に効果的に働きかけるために、どのような態度・表現が必要でしょうか?参加者同士で議論してみましょう。

生徒に伝え・引き出し・巻き込むためには…

言語コミュニケーション	非言語コミュニケーション

コミュニケーションの2つの種類

コミュニケーションは「言葉」によるものと「言葉以外」によるものの2つの種類に区分できます。言葉以外の要素の具体例は、声、表情、振る舞い、服装等があり、これらの非言語による情報の方が対話相手に与える影響が大きいと言われています。

「非言語」への気配りは、指導者と生徒の関係上も、また生徒に対して社会に出るのにふさわしい振る舞いや態度を教える上でも重要な要素です。

グループワーク

講演や授業など大勢の生徒に働きかける際に効果的なアイスブレイク、パフォーマンスについて実践してみましょう。

(例)共通点探しゲーム

	〈名前〉	〈共通点〉
1		
2		
3		
4		
5		
6		
7		
8		
9		
10		

指導に有効な「振り返り」

キャリア教育においても、指導した内容が「やりっぱなし」ですぐに忘れられてしまわないように、「何を学んだのか」を生徒本人に振り返らせることが重要です。

第一部で学んだことの振り返り

- ☐ キャリア教育とは何か具体的に理解できた
- ☐ キャリア教育にかかわる人材の役割と機能を理解できた
- ☐ 学校の組織体制や教員の仕事を理解できた
- ☐ 高校生を取り巻く環境や課題を理解できた
- ☐ 高校生の就職環境を理解できた
- ☐ 学校と外部専門人材の連携手法を理解できた
- ☐ 外部から学校への効果的な働きかけ方を理解できた
- ☐ 生徒への効果的な働きかけ方を理解できた

Column 高校生の進路選択は不安と期待の「やじろべえ」

高校3年生は「自分の進路を考えるとどんな気持ちになるか」との調査がある。(P.09参考資料参照) 回答の上位2つは「自分がどうなってしまうか不安」(49.4%)と「自分の可能性が広がるようで楽しい」(25.9%)であった。進路の選択は不安と期待の拮抗状態を生み出す。不安と期待という二つのオモリを左右につけた「やじろべえ」にたとえれば、高校3年生は不安のオモリが2倍の、ひどく傾いた「やじろべえ」状態にあるのである。

キャリア・コンサルティングでは、進路の選択をよく初めての場所への旅行にたとえる。未知の場所であれば、期待もするが不安もあるからである。進路選択の「やじろべえ」は、自分の興味・関心のある事柄に出会ったり、うまくいった体験をすると期待の方に傾き、希望する進路に進むには大変な努力が必要なことを悟ったり、体験活動で失敗すると不安の方に傾いていく。期待があるから不安が起こり、不安があるから期待も大きくなるのである。

成人ほど経験や情報が十分でない中、かつてない変化の激しい社会に出なくてはならない高校生は、不安というオモリが肥大したアンバランスな「やじろべえ」状態になるのである。こうした高校生に進路指導、キャリア教育を行う教員側も大変な困難を感じている。外部専門人材が高校キャリア教育、進路指導へ支援する意味や価値は非常に大きなものなのである。

外部専門人材と高校教員が協働し、生徒への効果的な支援を創造するには双方の相当な努力が求められる。しかし、この努力は、さらなる大きな期待と不安のオモリに耐え、バランスのよい「やじろべえ」状態で高校生が進路(生き方)を選択し、新たな進路先に踏み出すためには必要不可欠なのではないだろうか。

早稲田大学大学院教職研究科 教授 三村隆男